

復仇
奇詔

天橋立

三

^ 13
3579
3



門 13
號 3579
卷 3

復 雙言 奇 詔

天橋立後編

十返舎一九著
一陽齋豊國画

圖書館
22
書



復 雙言
奇 詔
天橋立後編叙

初編の事をもて終りして
行ふ。是特々次編を
終り。任世國辭
編むらへば
あつたれむ

彼^{あつて}歌^て大^たる^る心^{こころ}の^あ要^{やく}行^{ぎやう}小^{せう}滯^{ちゆう}古^こを^を今^{いま}が
 美^ぎみ^き事^{こと}富^ゆ方^{かた}壯^{さう}の^あわ^わし^しと^とほ^ほら^らし^し
 り^りる^るし^しる^る。 ^{つらぬまうけ} 柳^{りゅう}花^かな^なを^をた^たみ^みぬ^ぬ遠^{とほ}
 務^{きやう}せ^せま^まま^まま^まは^はの^のあ^あま^まく^くふ^ふ文^{ぶん}
 字^じの^の深^{ふか}い^いも^も ^{ひまうご} ^{はらみ} 務^むめ^めの^のま^まな^なし^し。 ^ある
 心^{こころ}の^のあ^あま^まし^しう^うの^のあ^あま^まし^し。 ^ある

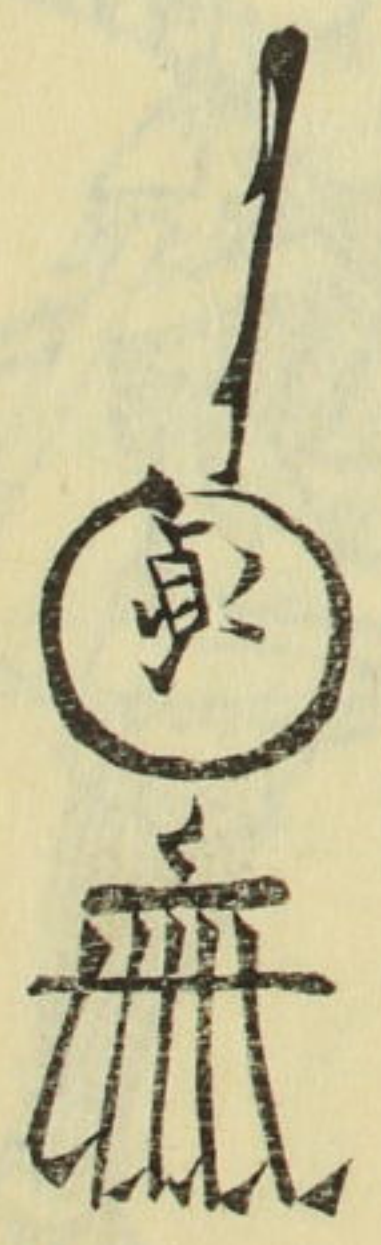
た

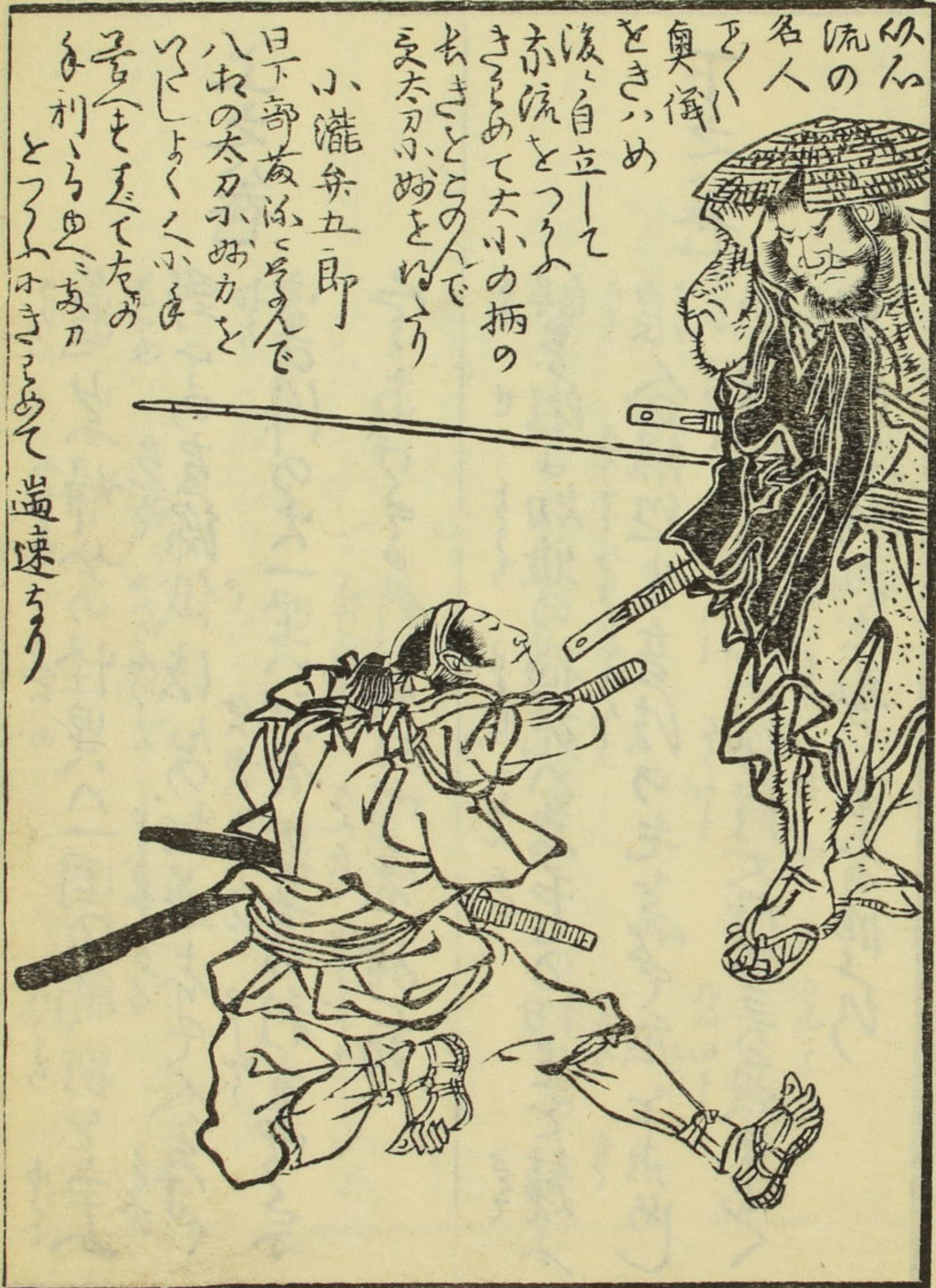
十^{じゅう}の^の心^{こころ}

丁^{てい}時^じ文^{ぶん}化^か四^し丁^{てい}卯^{みづ}春^{はる}正^{せい}月^{げつ}

毎^{まい}日^{にち}富^ゆみ^み子^こお^おの^のま^まり

十^{じゅう}返^{へん}今^{いま}一^{いち}九^く織^{おり}





上之卷

亀山婦女の怪異ハ一國の觸頭と申す
野千の直源俄法心の狂逆ヤせて人々を
室の陣の大一堅ハ列合証音の利生おろそ
をあげざる竹代の喧嘩騒動

下之卷

蟹子初雅の横死ハ思おしの切生と競ふ
浪人の縁起生兵法の毛を切て疵と成りし
赤心の謀の海ふらけ大陣の美無事まじ
英丸突死松が嶽の武者修之助

復讐奇語 天橋立編

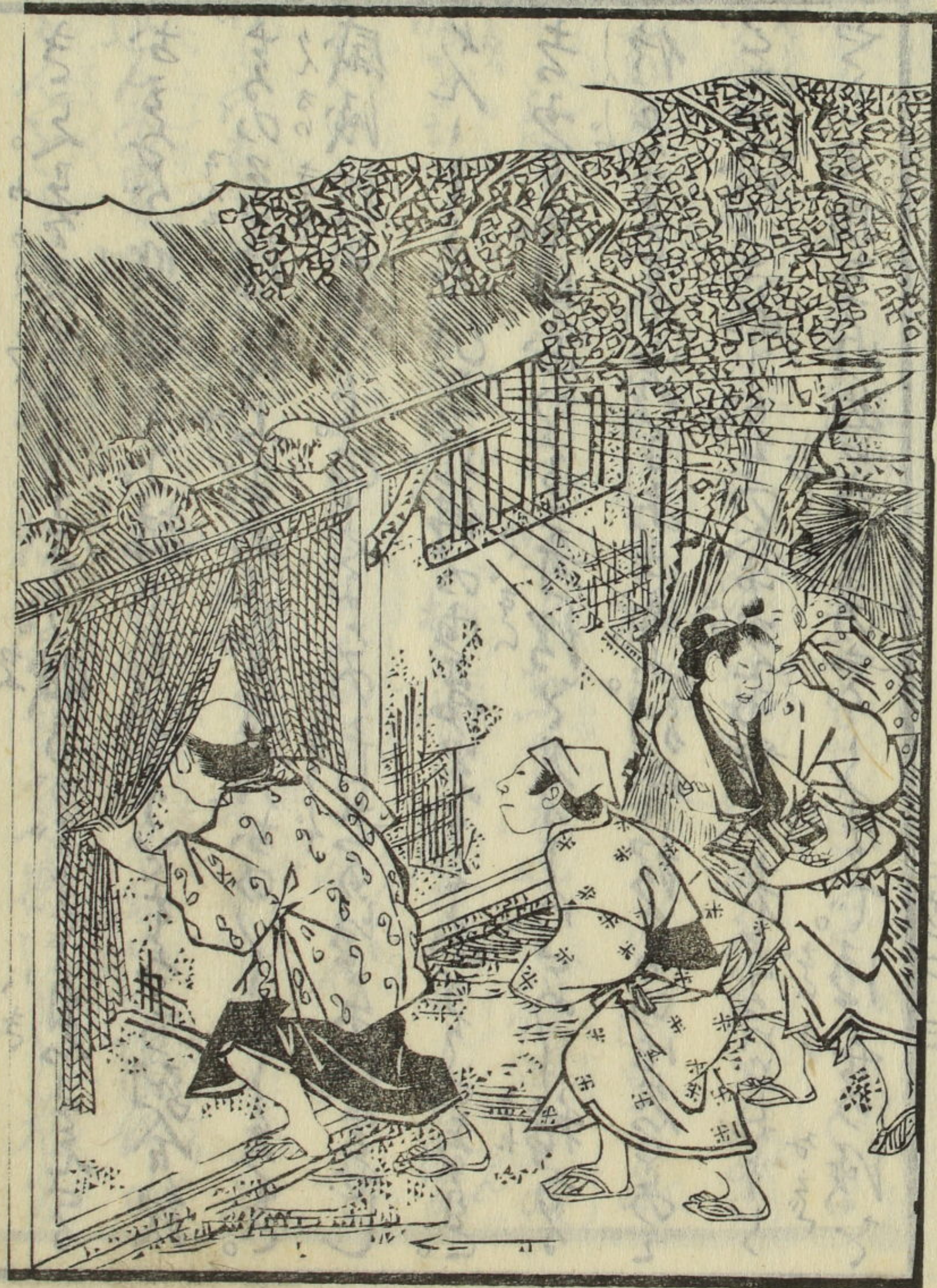
東都 十返舎一九著

第一回

丹州山名谷の峰主はまねお水の侍は日下郡有林
古の同家水尾の藩中。大目録甚まなうなる小横
死と違はるその仇敵と討敵死んと。始おさる。さう
丁海より玉降るとま出。うそのまねおと常ん。所
海海のうち。るおの病ひ。おれ。急山の町。おれ
不借宅してあり。が。家来と。おれ。おれ。

生よつぎ。初はつ女にむすめおよ孫ひらとてむらう。まほひのこゝろゆるら
まれ孫ひらおこのその孫ひら〜ふとえう孫ひらは舟ふねの中なかに
はのり。級しやう念ねんを〜お孫ひらも任まかさげ今のわらふのそま
なく只ただ此こゝ孫ひらのまかり火ひのやがて海うみに人ひととをむれ
世よと孫ひらをかこち〜なく近きん海うみのあゝ書か経けいも
あひひるまはむも計けいのむ。公こう中ちゆう不ふ始はつおよ孫ひらのい
し〜んとそのゆのこあんど〜はびちあ〜のま〜ぬふ
海うみ〜むらう。自まづ急いそ〜えぐ小こ海うみあう〜。日ひは修しゆ公こう
とてまらる。別べつ合あひ註しゆ書しょの市いち名なとてまらる。何なにをも始はつが
ユラニ ぎ

ゆきをまら〜せぬ〜一ひと公こう不ふ始はつ新しん〜。又またの指さし下したの
む〜しやう。そまはは〜の海うみ〜。安あん東とうの海うみもよ
〜のれぬ〜。洋ようのい孫ひら公こう中ちゆう不ふ〜を始はつ念ねん〜
まら〜くも孫ひら急いそあう〜ら〜。まらよ〜
〜で寂さび滅めつのまよ〜と〜。のれ近きん海うみの
の〜も。〜人ひとまら〜合あひせ〜も不ふ始はつ念ねん〜入いれ孫ひら
まらよは〜まら〜。あ〜〜。海うみ〜
〜。我われのまら〜。あ〜。海うみ〜
月つきのあ〜。あ〜。い〜。あ〜。海うみ〜。海うみ〜。



コウ
ニ
ニ

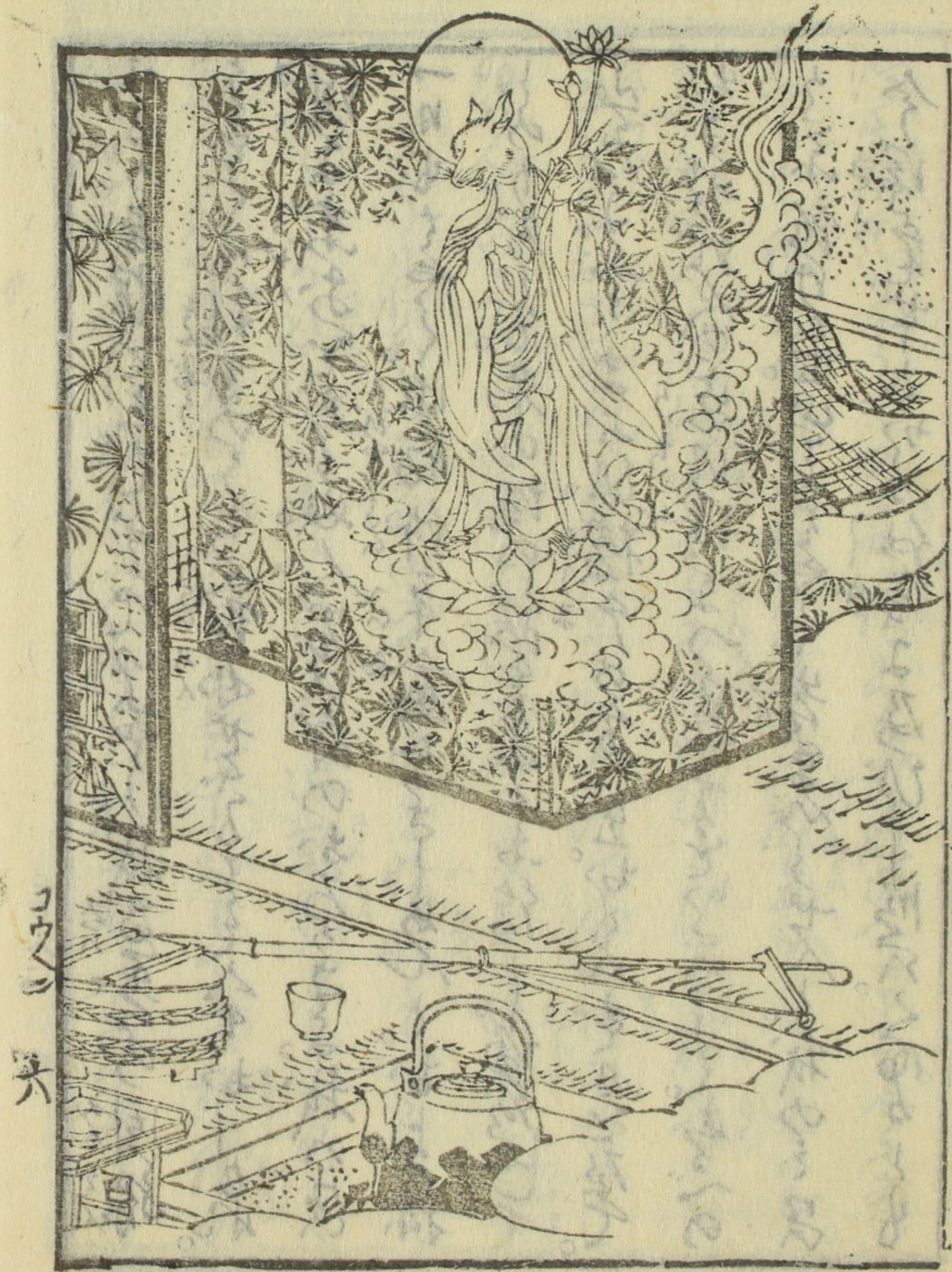
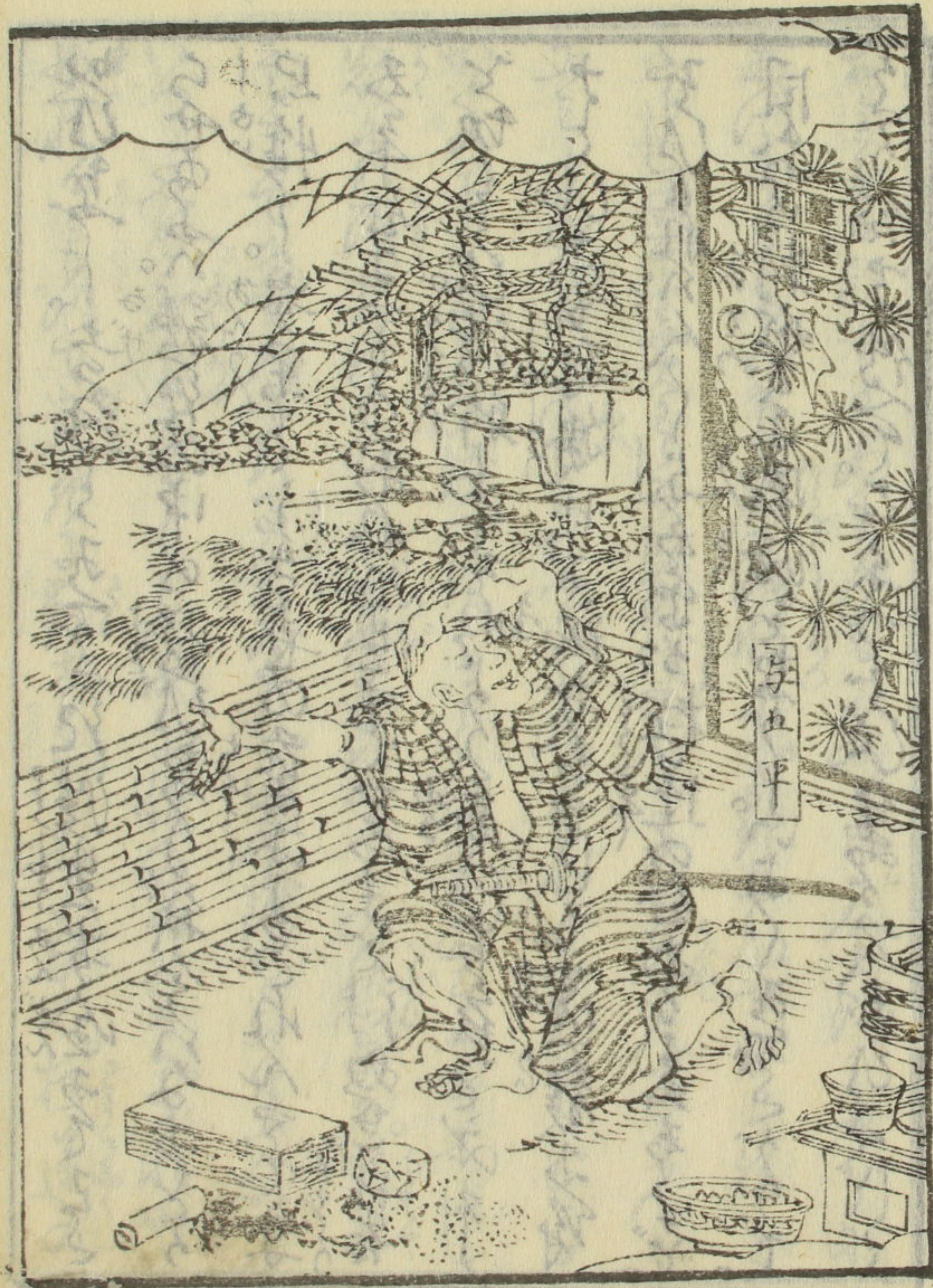
きこえ。かきく。くん。眠る。ぐん。く。自。心。と。え。う。
か。こ。ま。が。血。脈。と。う。赫。く。ひ。う。と。を。ち。別。合。飲。
ま。の。ま。像。持。上。よ。あ。の。ま。あ。つ。ち。の。い。か。ど。う。き。
感。行。ゆ。め。ど。ひ。こ。ま。の。亡。老。の。極。楽。生。ま。せ。
ん。い。と。う。い。ま。佛。の。由。事。ま。あ。つ。う。と。あ。つ。う。と。あ。見。
き。あ。も。目。あ。か。る。奇。理。と。あ。つ。う。と。あ。一。精。う。
修。ま。よ。こ。ま。あ。ま。あ。あ。あ。あ。別。合。飲。着。る。の。由。事。と。あ。こ。
こ。あ。へ。う。ま。れ。が。その。余。光。あ。や。く。老。さ。ら。い。は。と。し。
ぞ。く。又。お。ち。あ。ぬ。ぬ。名。ま。の。や。う。く。ま。う。で。何。事。の。後。と。
コウナン三

あ。う。り。る。く。て。之。店。主。何。事。も。ま。せ。ま。う。へ。い。ま。
後。合。く。か。こ。ま。が。始。ま。ゆ。極。の。あ。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。
あ。の。ま。で。ゆ。く。あ。ま。れ。ま。終。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。
さ。い。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。あ。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。
彼。を。あ。つ。う。と。あ。い。ま。あ。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。
せ。ま。い。ろ。う。が。こ。く。ま。ま。と。く。又。作。り。今。ま。あ。つ。う。と。
あ。の。ま。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。か。る。奇。理。ま。あ。つ。う。と。
近。の。男。女。追。く。こ。ま。と。せ。ま。う。と。あ。の。く。僧。作。の。
か。く。こ。ま。あ。つ。う。と。あ。い。ま。無。事。終。ま。と。あ。の。感。行。く。老。る。

も。若くは。強^つく。不^ふけ。な。よ。あ。む。む。く。な。く。な。あ。し。ぞ。
この。七。老。の。活。佛。の。あ。や。う。ん。と。お。の。く。暮。後。と
あ。げ。香。花。と。も。向。て。あ。む。さ。り。な。れ。ば。左。も。も。あ。り
が。く。も。な。す。て。お。ま。り。が。死。體。と。持。か。こ。く。母。ち。ふ。よ。せ
く。け。ら。や。く。し。く。地。海。と。て。し。あ。る。と。わ。り。死。を。傳。へ。て
是。を。法。人。よ。お。ぐ。ま。せ。ら。う。ゆ。お。ひ。く。集。法。師。集。し
能。物。丘。の。ま。ま。集。法。師。の。う。あ。る。と。し。く。あ。く。ふ
若。き。と。あ。る。年。の。ま。た。よ。も。あ。ら。む。と。教。え。つ。れ。し。じ。を。
途。中。あ。ら。む。と。あ。ま。り。う。た。ひ。し。く。は。強。念。の。あ。り。ひ

レ。チ。ハ。コ。レ

そ。ゆ。え。と。さ。が。り。あ。る。よ。あ。の。ま。ま。と。強。念。を。く。ま。し
能。山。の。ま。ゆ。り。集。法。師。あ。る。洞。交。も。金。持。の。う。あ。る
な。ら。む。せ。ん。と。御。法。師。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る
大。師。の。將。帥。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る
隣。の。老。嫗。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る
か。よ。孫。の。の。い。う。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る
あ。ん。ど。の。果。然。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る
この。ゆ。え。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る
あ。ら。む。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る



かひあふ。昔々うまでりた法生安金ありはこと
ら世あふ。疑犯の中の疑ひあふ。我今うなるあふり
忠悔。安んてうき世のなふよとれんぞとよ
あ年をよ一かりあぬべ。よまうとつあふりめきを告
と物をひ法解してそれうら解のち良とてやう
やとひさも持送けは証抄事して。後後少時
そのひも解人くよああが枉逆の心あるよまあふぞ。
日本一の判極き感涙をあらう。いよあふぬがごうて
ころ合中仲入て。よふつこひ集り入るひだすこ

ヨクハニセ

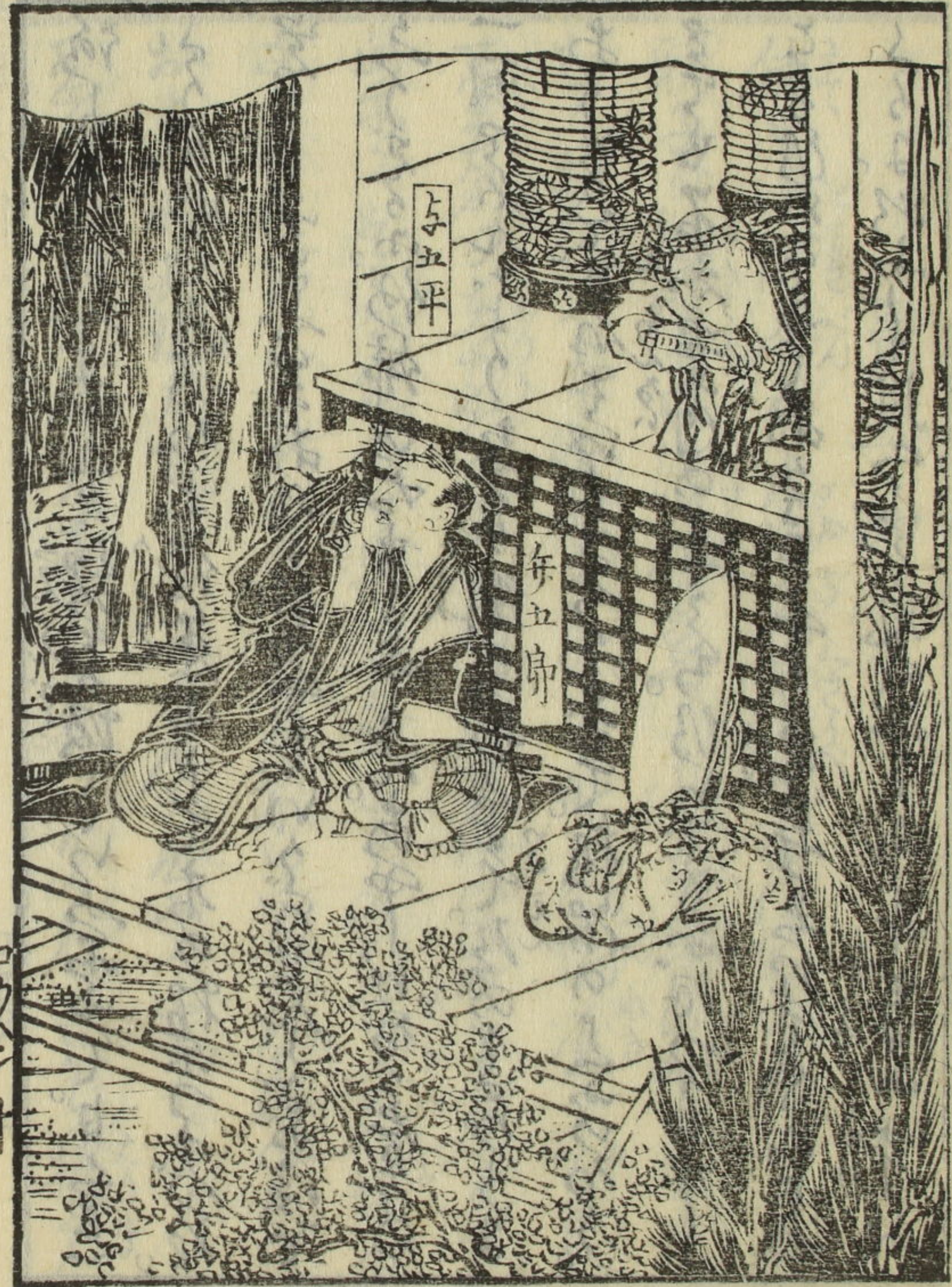
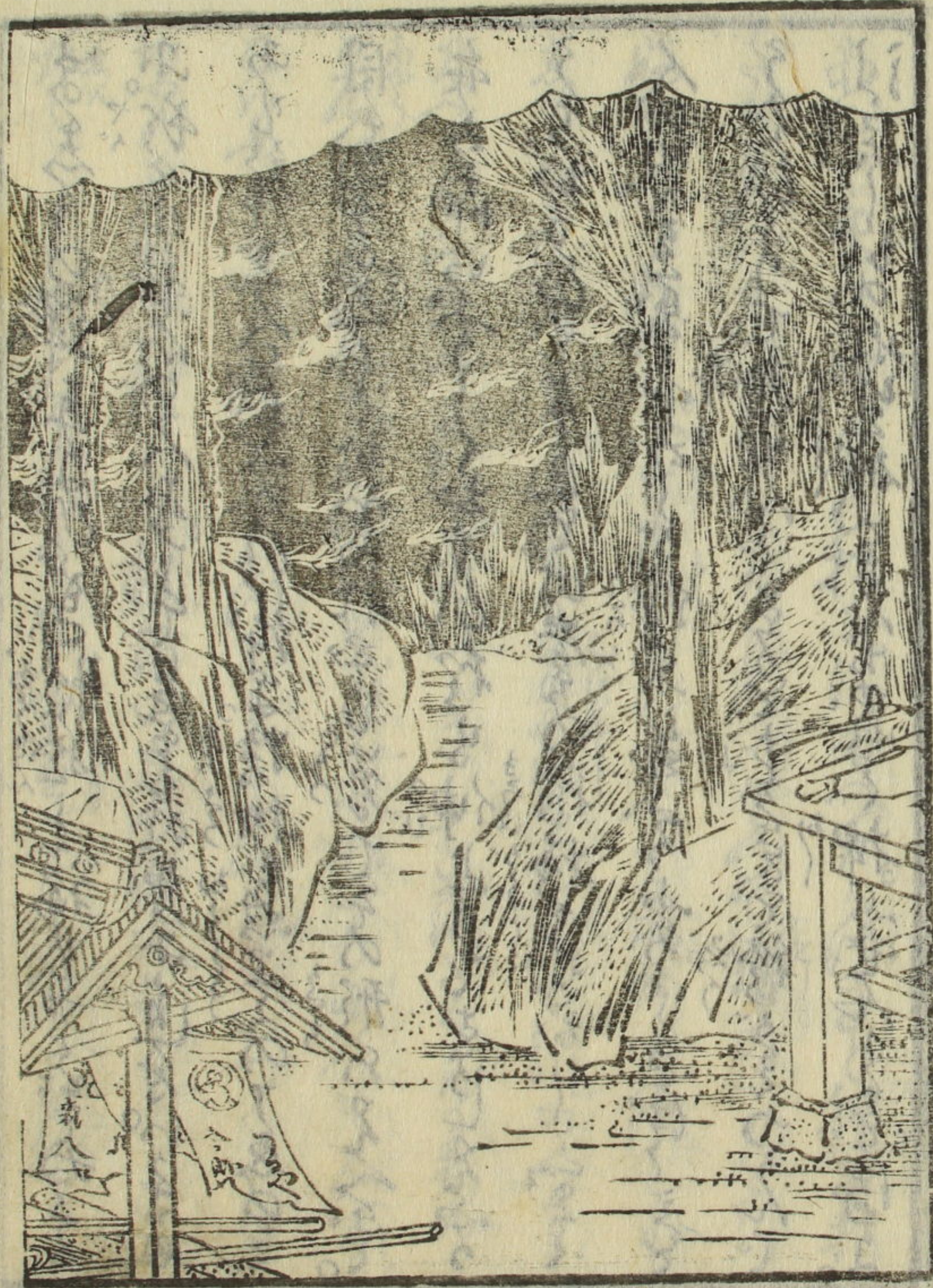
およそ日教十日あ申うらうらうら。金抄るぬらふ
あ申うら。よあ申落懸け。また申あ女およ程と
さしひれききよ。此の代の念子とたほあひさうん
つましうらあおの泡とあうらうら。今又たうらうら
かくのこ。あうの法つらうら。我輩のよまふら。し
ゆあ浪ちあらの。や、早きくごうのあふら。あふ
まふら。あふらうらうら。は金抄とあはああて
い。あうらあふら。あふら。あふら。あふら。あふら。
あふら。あふら。あふら。あふら。あふら。あふら。

第二回

借も小僧年あは偏父日中弱友任その始おさる
 釈子こなきもちが後継者の後援まけごちをよこす命をかろ
 むり。おろけいおまをとも出。あかくと備慮つねきし。うた
 甚どひふたらがま中ぬとらつ縁ありゆうをび。遠山の町おきさうて
 けあよおら子親子を跡し。憂うれこそ身に備びあのを心
 ざしてらごりほが。をあら年のふいうてを。必かなひこの
 おろれも後うしろをて。いじつうんく公こうふくま。まこく
 びんととも出。丹別にとてままたたるるとををく。播はりま

コナン 4

海ありついで入よかしま。録らんきん坂さかしつあみて。日ひくくこ
 うらぬむ。なるわどうら行ゆくまあそて木きの根ねおつつらうられ。
 若わかうとよまはるおゆえちやま。いうせんとも後を
 うつらるらふ。妙めう佛ぶつのおちまちももんんも。あやびるの常じょうの
 一間いっけんはめんめんだううあが倒たおししかかををままたたななののううららししは
 あつらうとまふたのいさざうあて。板いた敷しのよふあがり。
 さらも石いし敷しのちの山やまのち。おあむもお海うみつつああららしし。
 こつひのちあてあまきたやこまますすああだだををおおわわららしし。
 ころよ。おろし月つきのうら風かぜひやうあて。暮くれれおおけけししぶぶ



件くだんの男おとこハやうくよおれたあぐり。とちまぢまぢのまぢ孫まぢとて
 ぞび出でし。年としあぐりあぐりが面めんおおまま来きりて。うづくうづくままのまおおれれ。
 ああののわわのの一いち刀たうとよよここ入いれれたたかかししららののおおぢぢささくく。法はう師し
 ううととかかもものの大だい樽ずんのの布ふ子こととささうう。由ゆ体たい恰ちやう好こう尼にままがが
 方かたおおれれ安あんままささととささうう年としああぐぐりり見みたた。年としああぐぐりり大だい少せう僧そうまま
 ここののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 又また刺さ針はりををせせしし子こ細さいいいううやや。向むかへへもも黙もく々々とと答こたへへもも
 せせままととおおれれたた。年としああぐぐりりままささととささうう。物もの性せいののつつままささうう
 しく。ままののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 コウエン十二

那なのの年としああぐぐりりままささととささうう。ままののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 連れん累るいののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 ののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 以もてて年としああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 ろろののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 ちちののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 確かく保ほのの切きりりとといいふふもも。友とも金かねををああぐぐりりてて六むのの後ごにに
 ののままももおおれれいいううああぐぐりりののああててかかくく。法はう師しののままささととささうう。
 止とままりりてて日ひ次じ列れつ冷れい説せつををとと信しん作さくああるる。合あいい好こうとといいふふ。



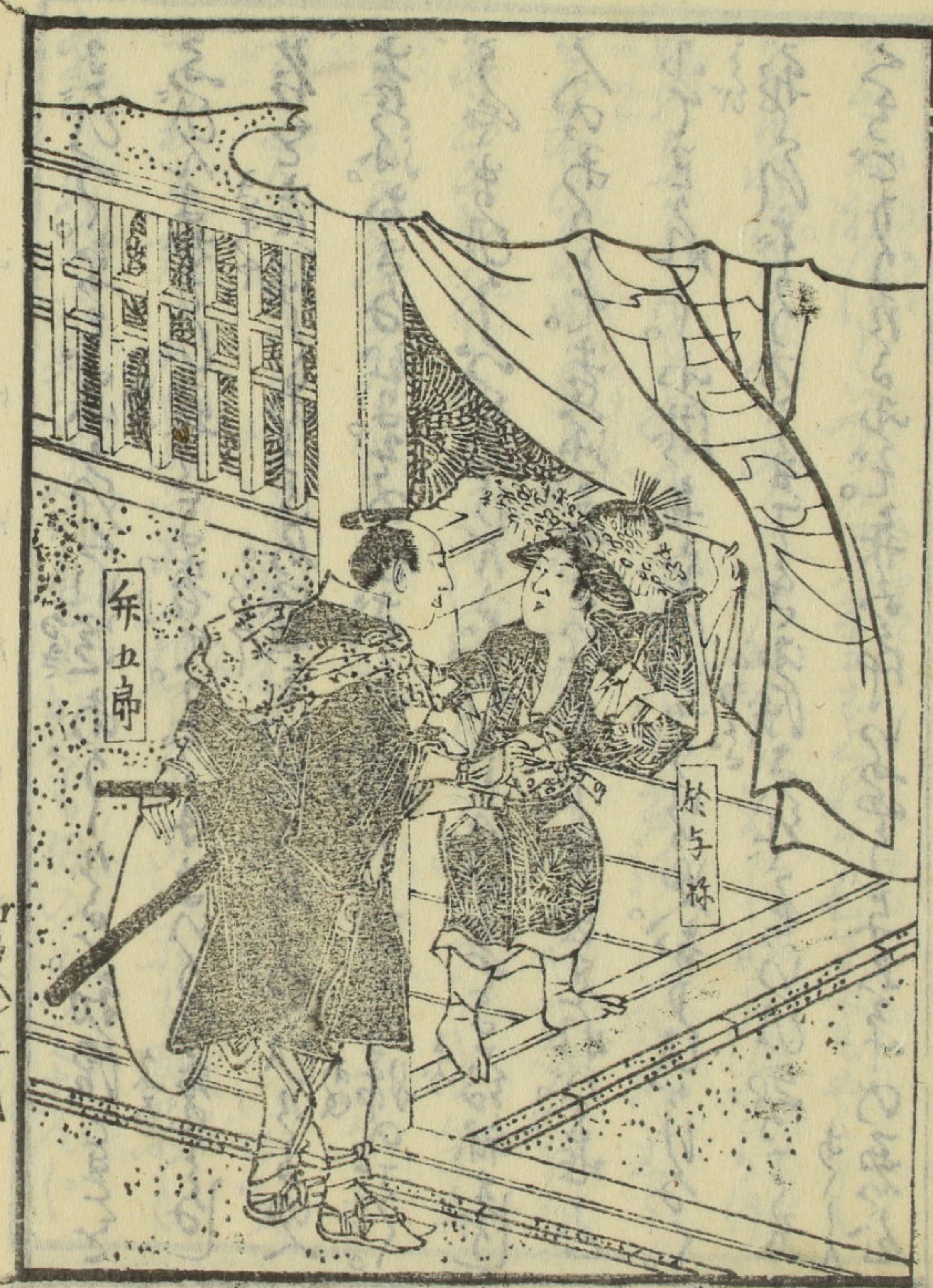
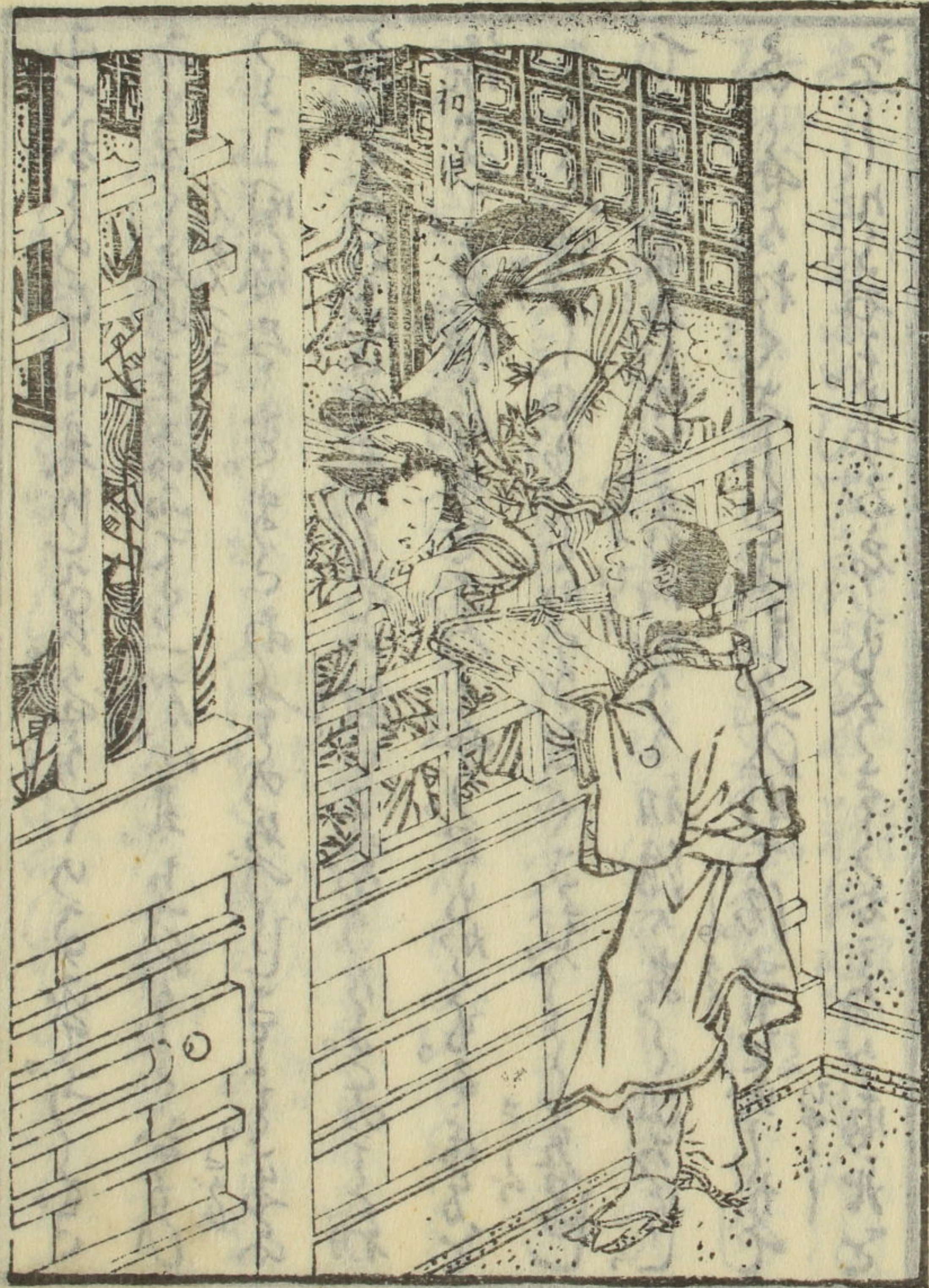
豊後。さかしのれがあまをゆりおろし。かゝる
不慮。命を奪。足も。あつらう。ぬく。とう。まやく。ま
より。肩。さ。け。け。切。さ。ぬ。が。よ。み。年。の。し。を。別。より
あ。中。と。あ。つ。て。何。も。お。ぢ。ぎ。ど。今。同。の。さ。よ。る。花
あ。て。あ。つ。て。お。ぢ。り。血。争。う。れ。あ。あ。つ。て。は。ひ。ま。り
あ。い。と。あ。せ。れ。ぬ。痛。き。ふ。ら。り。ぎ。ど。か。の。つ。た。ま。う。じ
う。ら。ま。と。あ。い。せ。て。ゆ。り。さ。せ。あ。つ。て。は。こ。あ。つ。を
身。も。う。け。ま。さん。ご。ふ。切。殺。し。お。も。院。不。明。り。ぬ。れ
あ。い。さ。あ。い。の。を。ぬ。か。れ。ふ。あ。う。ま。ち。お。ぢ。を。急。せ。い。つ。え

あ。ふ。を。や。近。儀。の。か。の。た。ま。より。か。ま。る。が。死。骸。は。あ
ら。う。ち。ら。近。寺。へ。む。む。り。と。ま。て。その。人。へ。あ。る。子
れ。海。へ。寄。お。も。布。能。あ。つ。お。さ。め。て。供。養。し。け。し。ふ
あ。る。字。の。は。ま。り。へ。お。よ。ね。ら。あ。言。を。何。り。と。橋。加。は。し

第三回

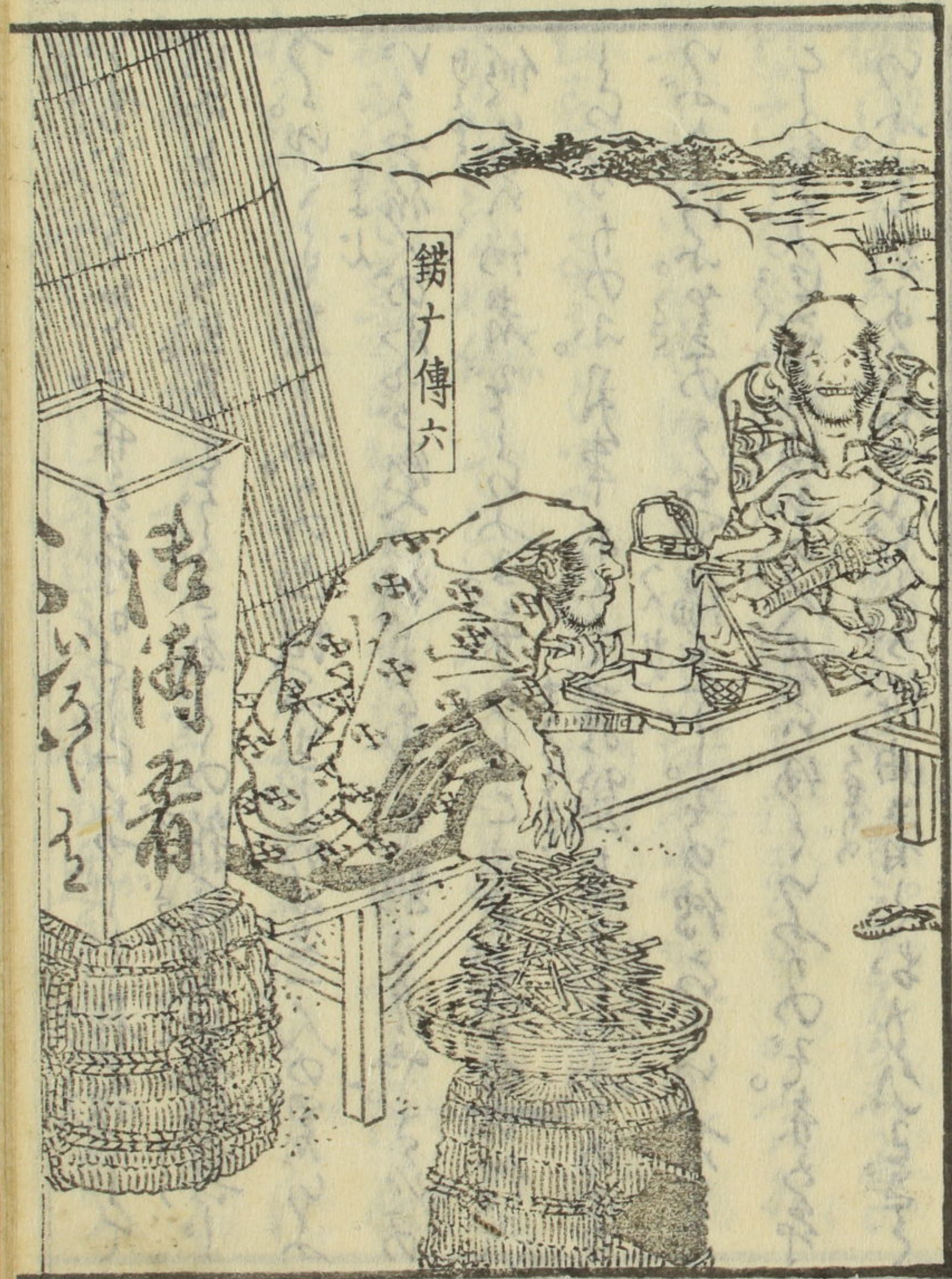
い。ま。い。を。ぬ。り。る。

あ。ふ。接。列。室。の。は。ら。ふ。西。國。の。通。船。と。止。て
情。を。あ。ま。さ。う。よ。悪。の。流。し。と。ま。り。ぬ。あ。あ。の。土。地
あ。つ。り。る。中。あ。も。ち。と。せ。な。し。つ。る。接。女。を。死。不。喜。事。象
あ。し。く。指。あ。つ。と。え。ぎ。く。ら。う。る。全。本。世。も。あ。ま。あ。る



うまはかきぬききほづぬのうへは身のやまうもく金抱ふ
 ありけむ。彼がまらゝびのつとむらう。ほどもあらうく
 のこ入さうと。秘此のうの一たるのあらう縁を。彼も
 とれつとろひてさう出つ。積海も秘可ふ及びらる。
 さしや初詣を。もじ免てあひく。弁る命が悪く。ま
 男がうまかうごきて。人きまど御を信へ。一拵く
 ばよう。今いつむるふん。縁のふらうけのふとせを
 つひわつ。いせのまじふ。あひひのしけとまきまき。あご
 さとごう。美風。のやんまふあ。縁が弁らうも。は真
 一ウシニ
 一ウシニ

のう人。務ふらうしけ。まてかあやう。まはぬのう。は托
 とあつて。あつ。のちせつとむ。むさびひと。らう。まらう。や
 一ウシニ
 月夜合殿の橋渡ある。や。やう。まあの。う。あれう。
 ともあつ。さう。ひら。口ひ。あ。の。嫌。ふ。百。せ。の。末
 ともあひ。ひ。あ。の。こ。ら。れ。ひ。ら。あ。ひ。一。せ。めて。今。ま。ら。ん。
 ひ。ともあつ。れ。さう。あ。れ。初。詣。が。あ。ひ。ひ。ひ。ら。あ。れ。弁
 り。あ。つ。て。あ。ま。の。あ。ひ。あ。の。う。の。ま。ら。う。あ。し。ら。ら。う。が。
 か。う。あ。つ。て。あ。ま。の。あ。ひ。あ。の。う。の。ま。ら。う。あ。し。ら。ら。う。が。
 け。が。い。ま。が。あ。つ。て。あ。ま。の。あ。ひ。あ。の。う。の。ま。ら。う。あ。し。ら。ら。う。が。



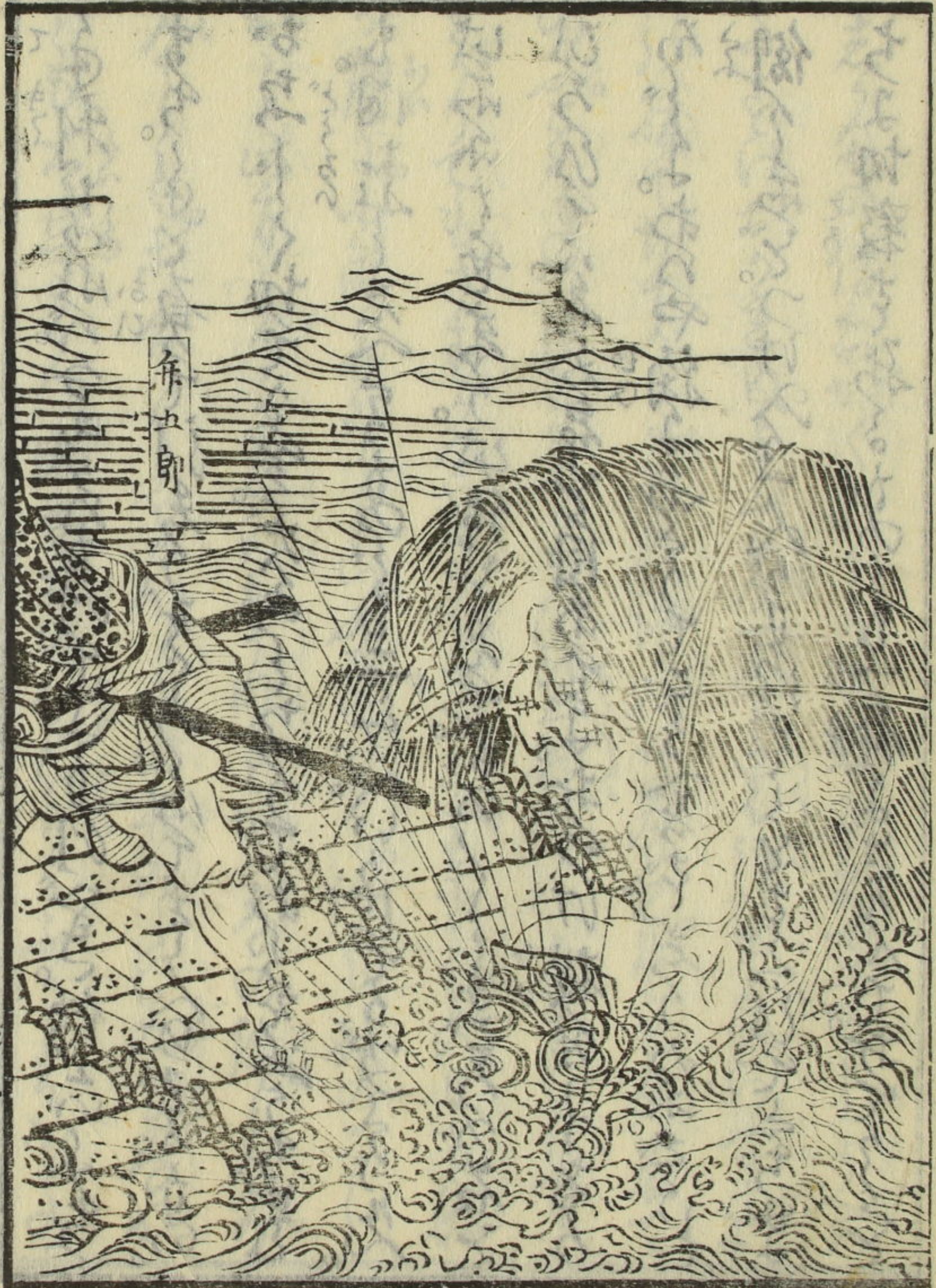
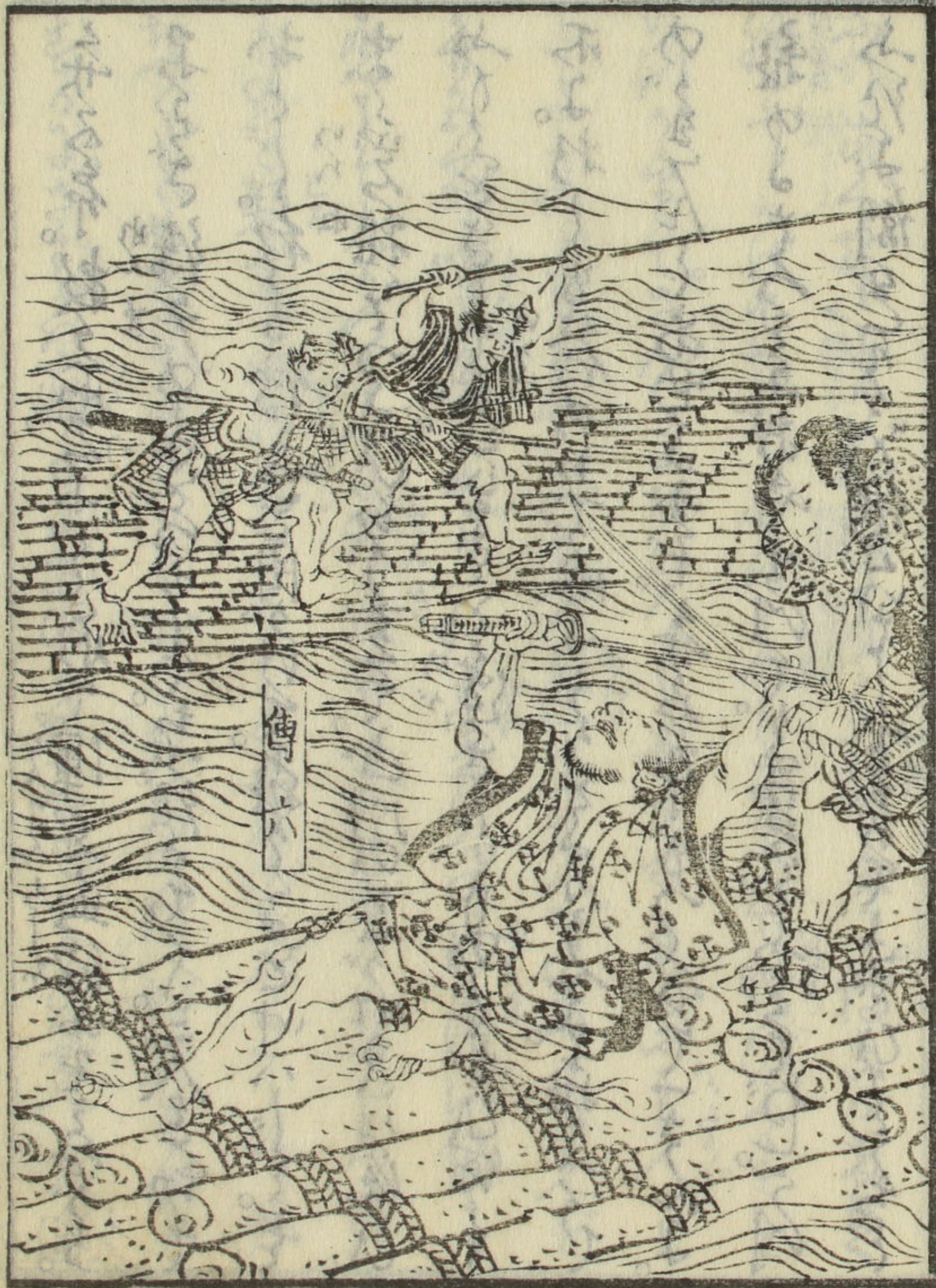
しむがさるゝ。年々めあかしてけあしと接取して
はあをさち出たるまじうさるゝの雑沓ふまひ無下
つ。ゆくもあしふ。の山坂ふさしかま二人の男らふ
いふお節人のかちが懸へ竹有あつて執事や。されめ
修名いゆ者ぞりふ。年々しくして。志る女の借六
らるりのふ。月年あつて。孫紙あつといふかの男
つぶらふまのうちを偏見し。その借さつといふは
とちあつてはまのゆまの人のあつてつあのみぞ。年々節
いふ。先刻あつちんぢうが体曲者くおひひこさて

海にせしき事ありしがあふしうらむ。そまが志る女の
借さつを。今へゆとり程嫌まはれ。月つゆといふは非
あつむ。いつをゆが老の坂の切あつてか。さししる
むさをあつむよと。まもあまを借夫。静かさを後じ
らうが。さへがぬ体して。さへめづじこまをさくわめりる。
我ふが。さうのがをへあつてあし。人とさへして後悔
あつちん。このもあつげあぞ中なる。年々節も清うけ。
はあらうらもか。ふま。まの津のちとせがかり
あつて。さつをさしし。まじう。さしし。さしし。今より

我と彼わがあひまう。はぢつけるべし。今いまはさうとけられん。
たもあをあをね。我わがなるなる皆みなありと。乃すなはの柄かはままとららね。
傳つたへ今いまはままののああかりかりひひ見み見み下くだ本ほん系けいととじ
来きるるううはは是ぜ無む事じあり。いいふふもも我わが。老らうのの返へああてて初はつ女にょを
かかへへせせしし死しつつれれううてて生なままをを約やくるる小こ丹たん別べつ山さん若じやく
谷たにののああるるよよし。今いま母はは親おやとと傳つたへへ無む事じ山さん小こあり
よよののああららううののああららうう。おおままささるる小こ丹たん別べつ山さん若じやくのの娘むすめ。
大おほいい奇き事ことたたららととここんんとと。初はつ女にょととつつれれててああららうう
かかめめううははままああららううびびししがが。ささををいいままのの目め下くだ別べつ山さん若じやくのの孫まごああららうう

コウハニ 廿四

りりるるううししかか付つけけられられもも。ああららううとと新あらためてめてああららううせせししがが
今いまままささ。そそのの方かたががはは仕し後ごはは及およぶぶ。いいののああららううのの縁ゆかりのの力ちから
ああららううがが。傳つたへへ今いまははいいふふしし。いいひひももたたててままるる小こ丹たん別べつ山さん若じやく
いいかかささててしし。いいままはは法はふのの本ほんああららうう所ところ深こほゆゆああららううととるる
そそのの方かたははああららううのの傳つたへへいいふふ。我わが下くだ丹たん後ごのの小こ丹たん別べつ山さん若じやく
ああららううてて。目め下くだ別べつ山さん若じやくのの孫まごああららううととるる小こ丹たん別べつ山さん若じやくのの孫まご
ととるる。銀いん貝かい丹たん下くだがが。先まづはは苗なえ仙せんとと思おもひひしし。いいふふののああららうう。ままらら
はは。水みづ尾おをを追おひひてて。後あとかかららううのの孫まごああららううととるる小こ丹たん別べつ山さん若じやくのの孫まご
ととるる。いいままはは。世よををああららううととるる。今いまののああららううととるる。今いまののああららううととるる。



Handwritten text in a cursive script, likely a manuscript or a list of names, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left. The characters are stylized and difficult to decipher precisely, but appear to be a mix of kanji and possibly Latin or Greek characters, suggesting a historical document or a specific dialect of Japanese.

漢倣

天智壬辰編

